クエスト通信

天童三中総合学習担当発行　　令和４年１０月１１日

「ソーシャルチェンジ　3年2組オンライン授業」

STEP9　『最高をめざす』。チームで力を合わせれば、一人ではできないことも可能になる。この時間を使って、チームの企画をよりよくしていく。

ポイントは、「困っている人を本当に笑顔にできる企画になっているか。」「なぜ、その課題に取り組むのか。」「どのようにやるのか、だれに何を届けるのか。」「具体的な企画の内容、何をやるのか。」「企画によって社会はどのように変わるのか。」最高の企画にするために、ブラッシュアップ。

授業では、チームごとに「教育と探求社」の学校コーディネーターの先生から助言をもらった。(10月3日)

各チームが笑顔にしたい人

１班	毛が濃い人を助けたい。
２班	○○先生を助けたい。
３班	職にうえている人を助けたい。
４班	障がいのある人を助けたい。
５班	溺れている人を助けたい。
６班	差別されている人を助けたい。

学校コーディネーターの先生より３年２組の皆さんへ

今日は、ひとつずつ話をさせてもらい、ありがとうございました。いっぱいコメントさせてもらいましたが、是非それをヒントにしてくれればいいと思っています。自分も正解を持っているわけではありません。私がシンプルに疑問に思ったこととか、こうしたらいいのではないか、というアドバイスをしたつもりです。

先日、社会課題に実際に取り組んでいる方と話をする機会がありました。みんなが助けたい人たちのうち、５人を本当に助けられるか。より具体的にイメージしていくとよい。実際５人助けられれば、続けていくと１０人、１００人と助けられる。本当に困っている人、ひとり二人を助けられるのか。具体的に考えていくとよい。実際困っている人に話を聞いてみるとかしないと、わからない。具体的なところがないと、どうやって助けたらいいか、なかなか思いつかない。

どのチームのどのテーマも困っている人がいるというのは、絶対だなと思います。毛が濃い人だって、泳げない人だって、職にうえている人だって、障がいをもっている人だって、いやな思いをしてきていると想像できるので、是非みんなのアイデアで、その人たちが笑顔になったらなと思う。救われる人が絶対いるので、最後まであきらめずに考えて欲しい。今日は、ありがとうございました。

◆　10月１３日(木)は、３年１組がオンライン授業を行います。　　＊過去の記事は本校HPに掲載中

クエスト通信

天童三中総合学習担当発行　　令和４年１０月１１日

「ソーシャルチェンジ オンラインイベント」

社会課題探究コース「ソーシャルチェンジ」に取り組む生徒を対象にした全国の中高生によるオンラインイベント(主催：教育と探求社)が、先月２９日にあり、本校から３年生２グループ、計７名が参加した。参加校は、桜美林中学校(東京)、大宮開成高等学校(埼玉)、福山市立城東中学校(広島)、三田国際学園中学校(東京)、天童三中(山形)。

日々の取り組みの中で、「自分たちが取り組む困っている人は、本当に自分自身が助けたい人なのだろうか」「自分たちが見つけた社会課題は、本当にこの企画で解決するのだろうか」「どうやって人に想いを伝えていけばいいのだろう」と、「ソーシャルチェンジ」に取り組む生徒は、悩みながら取り組んでいる。このイベントのねらいは現時点の自分たちの企画や思いを共有したり、他チームとの交流によりこのタイミングで自分たちの案を見つめ直したり、さらに深める機会にするもの。また、醍醐味は、何といっても多様な価値観を持った生徒たちが全国から集まり、地域や学校を越えて交流し、たくさんの刺激や気づきを得られること。当日は５０名を超える生徒が参加。ゲストスピーカーは、徳里政亮さん。(一般財団法人ポリネ理事、昨年のクエストカップ全国大会で本校のチームの審査員だった方)

参加者の感想　◆いろいろな学校の人の意見を聞けて、自分たちの意見に使えそうな案がたくさんあって、いろいろなことに気づけた。【〇〇さん】　◆みんないろんな意見を持っていて、すごく勉強になりました。それを生かして日々の生活に利用していきたいと思っています。【〇〇さん】

◆今回は、具体的なところまで考え発表することができました。「痩せる」ということを見た目からの視点で考えてばかりいたけれど、年代や性別などの対象をもっと広げていくと新たな視点から見ることできるということがわかりました。また、他校のとてもレベルの高い人たちの話を聞いて、話している内容の質が全く違うということを痛感しました。これから高校、大学と進んでいく中で、その力を身につけていきたいと思いました。貴重な経験ありがとうございました。【〇〇さん】　◆みんな私たちと違うことを言っていて、いい意見とかがたくさんあって参考になったし、東京とかたくさんの人が参加していて、経験ができて良かったです。【〇〇さん】

◆クエストミーティングに参加するのは初めてで、少し緊張しました。ミーティングは、全国の代表の人が参加していました。他の学校の困っている人について意見を聞いて共感することができました。それから、ゲストさんの話も聞くことができました。今回のクエストミーテイングでは、他の学校がどんな考えを持っているのか知ることができたし、勉強になった。【〇〇さん】

◆私は、徳里さんのお話を聞いたことでクエストミーティングに参加してよかったと本当に思いました。特に印象に残ったのは、困っている人への考え方についてです。徳里さんは、「困っている人をいつも助けてあげるのは大切だが、見守ることも一つの支援」とおっしゃっていました。また、「困っている人の立場を自分に置き換える。自分に寄せて、同じ靴を履いて考える」ということでした。これまでのソーシャルチェンジで、「困っている人」に対して少し遠くからの目で見ていました。しかし、自分の身近なものとして考えることでその人のためにもなり、より良い解決が見つかるとわかりました。そして、「今やろうとしていることを挑戦してみるのが大事」とも徳里さんはおっしゃいました。「成功したということよりも挑戦したというプロセスを大切に」というのが心に残りました。今受験や将来に向けて考え、悩みながらやっていることもたくさんありますが、思い切って挑戦してみようと思います。これから生きていく中で、考え方や見方を変えたり新しいことをやってみたりするというのは、重要な力になると思うので、大切に活用していきたいです。【〇〇さん】

◆「困っている人」を決めるだけでも、決める理由が「身近だから」「考えやすいから」「難しいから」と様々で困っている人がどんな人か聞くだけでも面白かったけど、なぜそれになったか背景を聞いてみると、それも面白かった。たくさん判断する理由があるなと学んだ。【〇〇さん】

＊過去の記事は本校 HP に掲載中

クエスト通信

天童三中総合学習担当発行　　令和４年１０月１１日

「コーポレートアクセス　2年2組オンライン授業」

STEP13 『企画会議を開く１』。アイディアを持ち寄って、仲間と一緒に大きく育てていく。そんな時に役立つ「ブレインストーミング」。「ブレイン」＝ 頭脳。「ストーム」＝ 嵐、急激な変化。人の意見や行動に対し、即座に反応する状況の意。アイディアを出すための自由で活発な話し合い。「ブレスト」と省略されることもある。

今日の授業は、「ブレインストーミング」という話し合いの方法を試す。いかに楽しめるかが、成功の秘訣。

オンラインでの学校訪問者は、パナソニックエナジー(大阪市から)、大和ハウス(山形市から)、教育と探求社(東京から)より１名ずつ。各班の話し合いに混ざりながら、様々なアドバイスをいただいた。

前回の授業で、各企業からのミッションを受け取った。それが、なかなかのもの。どう解釈したらいいか、難しい。例えば、カルビーのミッション。**世界中の「心がはしゃぎだす」カルビーが今すぐ挑むべき共創プロジェクトを提案せよ！**「心がはしゃぎだす」瞬間はどんな時か、ひたすら書き出す。そして、心がはしゃぎだす理由や条件、きっかけについて話し合っていく。カルビーが創造したいのは、いままでの商品・サービスを超えた、世界中の「心がはしゃぎだす」未来。

どのグループも各企業から与えられたミッションに対する自分たちのアイディアを、模造紙いっぱいに付箋を貼り付けていった。

企業人からの講評

パナソニックエナジーの方より　　みなさんの発想が、創造性豊かだと感じた。発表している内容も企業から出したテーマに対して、私たち企業側が予想していなかったキーワードが出ている。これからまとめていけば、すごくいいものになるのではないか。これからが本番なので頑張って下さい。ありがとうございました。

大和ハウスの方より　　真面目なものから、面白いものまでたくさん意見が出ていて、すごく勉強になりました。これからチームでまとめにいくと思いますが、その中で自分たちのチームで何を一番大事にしたいのか、自分たちのチームの推しを一つ決めて、取り組んでいったらいいと思う。ありがとうございました。

学校訪問者した方々の共通の感想

すごく雰囲気がいい感じだった。誰がしゃべって、しゃべらないという感じがなく、うまくチームが回っている。中学生なので思考が柔軟で発想が次から次へと出てきた。予想以上に出てきた。すごいと感心しました。

すごいチームワークがいい。意見もけっこう真面目。はっちゃけた意見も取り入れると、面白いものが出来上がっていくと思う。

＊過去の記事は本校 HP に掲載中